

“関節リウマチに対する JAK 阻害薬治療前後の生物学的製剤の使用状況に関する後方視的臨床研究”

研究の概要・背景

JAK 阻害薬は、近年関節リウマチ(RA)の新たな治療薬として、メトトレキサート(MTX)に治療抵抗性を示す RA 患者さんに対して生物学的製剤とともに推奨される低分子化合物です。JAK 阻害薬は、単一のサイトカインを抑制する生物学的製剤と異なり、細胞内キナーゼ阻害により複数のサイトカインシグナルを抑制することから、既存治療に抵抗性の RA 患者に対する有効性が期待されています。しかしながら、実臨床においては無効例もしばしば経験され、JAK 阻害薬が適した患者像は明確にはなっていません。そこで今回、JAK 阻害薬導入前後の bDMARDs 使用状況に着目し、導入前の bDMARDs 使用数、JAK 阻害薬無効例でその後使用した bDMARDs を検討し、それらの臨床的傾向を明らかにしたいと考えています。

対象者・期間

2014 年 1 月 1 日から 2020 年 10 月 31 日までの間当院で JAK 阻害薬による治療を開始後、12 週以上観察し得た RA 患者様を対象としています。

データ利用のお願いと申し出について

この研究は通常の診療で行う臨床情報を匿名化したかたちでコンピュータに登録していきます。患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院 内科

担当医師： 高村紗由里 研究責任医師：佐伯敬子

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)